



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.219

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2024年2月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：樋口篤志)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

第26回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム開催

CEReS は、文部科学大臣の認定を受けた環境リモートセンシング分野の共同利用・共同研究拠点であり、国内外の研究機関との共同利用研究を推進しています。共同研究を通して環境リモートセンシング分野における研究成果や社会への還元を拡大させることが CEReS の存在意義の一つであると考えています。環境リモートセンシングシンポジウムは1年間の共同研究の成果を発表する場、及び情報交換の場として毎年開催されています。本年度は、令和6年2月15日にハイブリッド形式（本学けやき会館の会場とオンライン）で開催いたしました。ハイブリッド形式としたことにより、アジアだけでなく米国・欧州からのオンライン発表も可能としたことで国際シンポジウムとしての国際色を色濃くしつつ、本学学生などを含めた現地参加者も交えた大変活発な議論の場となりました。当日の発表題目等の詳細なプログラムは、以下の CEReS ウェブサイトに掲載されておりますので、ご参照いただけたら幸いです。翌年度の共同利用研究公募を間もなく開始します。公募要項は近日中に以下の CEReS ウェブサイトに掲載します。皆様の積極的なご応募をお待ちしております。



本年度の CEReS シンポジウムのプログラム：<https://ceres.chiba-u.jp/4640/>

CEReS 共同利用研究推進委員会からのお知らせ：<https://ceres.chiba-u.jp/collaborative/>

(入江仁士)

リモートセンシングコース修士論文発表会を開催しました

2024年2月6日に、リモートセンシングコースの修士論文発表会が行われました。当初は、今年度の発表会よりコロナ禍前の完全対面形式に戻し、より多くの人に聴講してもらうために工学部2号棟102講義室で開催する予定でしたが、関東地方にまとまった降雪・積雪の予報が出ていたために急遽MS Teams 上の完全オンライン形式での開催に変更となりました。今回、修士論文発表会に臨んだコース学生は14名（先進の1名を含む）でした。

今回の発表会も、7月の9月修了生の修士論文発表会および12月のM1の中間発表会と同様に、質疑応答の時間を長くし（14分）、質疑応答とディスカッションをより重視したスタイルとしました。多くの学生が発表時間内（15分）に研究結果を要領よくまとめて発表できており質疑応答も活発で全体的に質の高い発表会であったと思いますが、オンライン開催でベルを鳴らすなどのタイムキープが難しかったこともあり、一部、大幅に時間を超過した発表や聴き手のことを意識していないような発表があったことが残念な点でした。一方、先のM1の中間発表会に比べると今回は多くの学生が聴講していたようであり、各研究室で学生に積極的な参加・聴講を促す指導をしていただいた結果であると満足しています。

教員による審査の結果、修士論文発表会の優秀発表賞は入江研の藤井雪乃さん、楊研の張淋寧さんに授与されました。おめでとうございます！

(齋藤尚子)

令和6年2月6日(火) 9:30-17:45 @オンライン

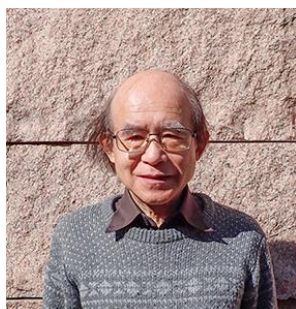
氏名	修士論文題目	研究室
橋本 達希	ひまわり8号データとキャノピー放射伝達モデルを用いたアジア・オセアニア域の葉面積指数の推定	市井・山本研
小田 理人	衛星画像を用いた湖沼の水生植物繁茂のモニタリングとメカニズムの解明	楊研
藤村 健介	アンサンブルデータ同化を用いた降雨流出氾濫モデルによる河川水位予測の改善に関する研究	小槻・岡崎研
森 千春	全球AGB推定における森林タイプの把握を目的とする土地被覆分類の手法開発	本多・梶原研
浅野 雄斗	GOSAT/TANSO-FTSデータにもとづく領域・高度別の二酸化炭素の濃度増加量と季節変動の解析	齋藤研
LYU WEI	High-Resolution Hourly Modeling of Gross Primary Productivity Using GOES-16: A Machine Learning Approach	市井・山本研
河崎 文俊	モデル予測制御とデータ同化による低次元カオス力学系の所定レジームへの誘導	小槻・岡崎研
古谷野 健	マルチスペクトル及び熱赤外カメラを搭載したUAVIによる水稻病害把握手法の検討	本郷研
齋藤 匠	データ同化の精度向上に向けた有効な観測位置決定手法の開発および観測インパクト評価	小槻・岡崎研
張 淋寧	Monitoring of Global Vegetation Phenology Using GCOM-C/SGLI Satellite Data	楊研
藤井 雪乃	地上と衛星リモートセンシングを複合利用した雷起源窒素酸化物の検出方法の検討	入江研
佐々木 景悟	ベイズ最適化を用いた降雨流出氾濫モデルの計算効率性の高いパラメータ最適化に関する研究	小槻・岡崎研
XIAO QI	Accurate Detection of Marine Heatwaves using Sea Surface Temperature from Geostationary Meteorological Satellite Himawari-8 Observations	楊研
WANG Jingyuan	JERS-1 SAR生データ処理と偏波解析による土地利用・土地被覆分類の研究 Study on JERS-1 SAR Raw Data Processing and Polarimetric Analysis-based Land-use Land-cover Classification	ヨサファット研



服部センター長からの優秀発表賞の授与（2月21日センター長室にて）

✚ 新教員紹介

■ 露木 義 特任研究員



このたび、小槻・岡崎研究室の一員としてお世話になることになりました露木義と申します。毎週火曜日と金曜日の出勤となりますが、ムーンショット小槻コアプロジェクトのPM班の仕事などに携わる予定です。現在、気象研究所気象観測研究部客員研究員と気象業務支援センター主任技師（非常勤）もやっております。

私の経歴を簡単にご紹介しますと、定年退職後の再任用を含めて気象庁に38年間勤務しました。主に予報部数値予報課（うち2年間はフロリダ州立大学気象学部客員研究員）と気象研究所予報研究部で、数値天気予報とデータ同化に関する研究開発に携わってきました。数値予報班長を務めていたときに、世界で初めて領域解析のための4次元変分法データ同化を現業化し（全球解析については6年前にECMWFが現業化していた）、WMO/WGNE 定期会合で注目されたことが大きな思い出です。これは、私の計画に興味を持ってくれた一人の職員の献身的な努力の賜物でした。「国際社会で評価されるのは originality である」と誰かが言っていたのをモットーにして、これまでやってきました。小槻・岡崎研究室にどの程度貢献できるのかまだよく把握できておりませんが、どうぞよろしくお願ひ致します。